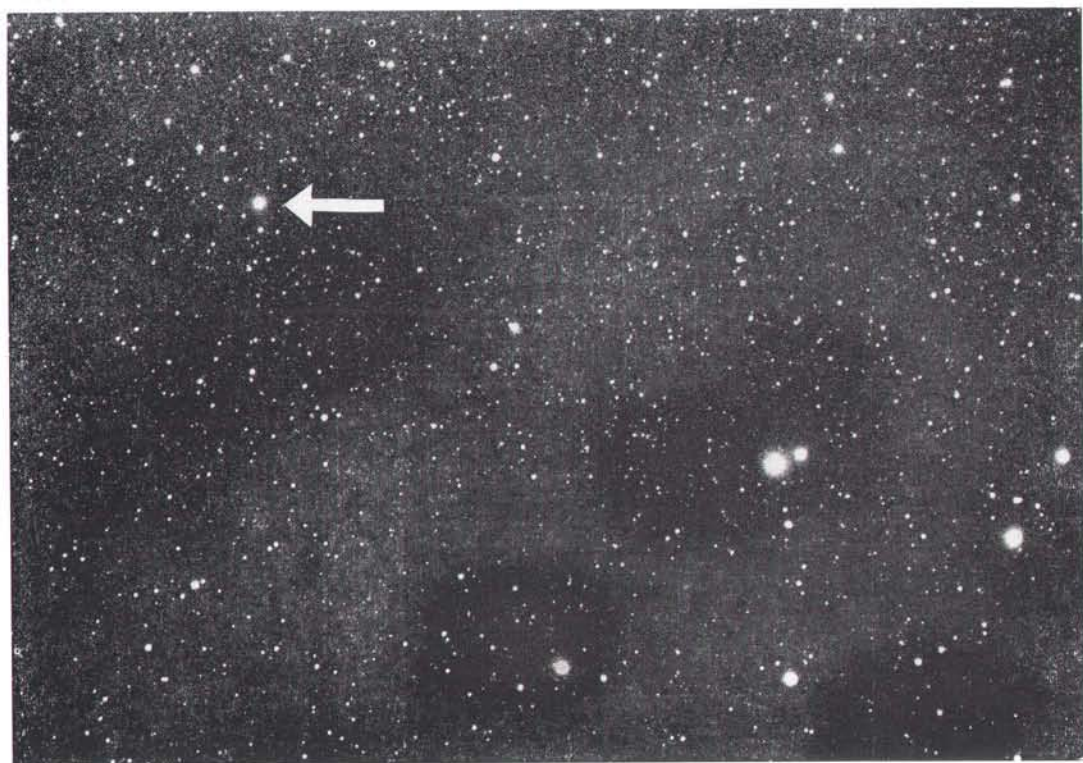


来日した海外天文学者

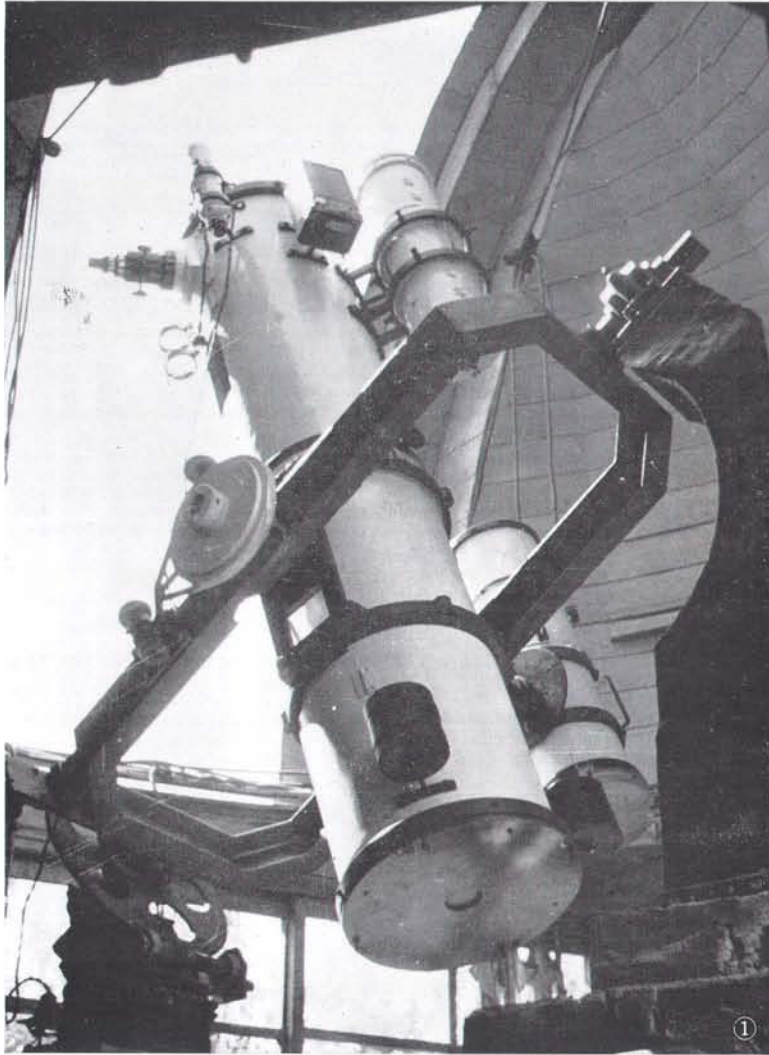
(8月号せんさあ欄参照)

(左) 東京見物中のオーストラリアのカー (Kerr) 夫妻。皇居前の噴水の所にて。(下) 東京天文台に滞在中であったハワイ大学のスタイガー (Steiger) 氏。昨秋の東京天文台運動会で、ビールとり競技に奮闘中。右は古畑氏。



いるか座新星

1967年7月8.94日(世界時)、イギリスの Alcock は、いるか座の赤経 20 時 40.1 分、赤緯 +18 度 59 分(分点 1950.0)に新星を発見した。光度は 5.0 等(実視等級)。この写真は本会々員藤井旭氏が福島県郡山で7月15日23時24分(日本時間)から3分間の露出で、6cm 屈折式赤道儀にアサヒベントックスをつけて撮影されたもの。矢印が新星。



小島氏自作の
シュミットカメラ

愛知県一色町の小島信久氏は中学校で理科を教えられる傍ら、反射鏡やシュミットカメラの自作をされ、天体写真の撮影を楽しんでおられる。

写真1 は口径 31 cm, F 6.3 の反射鏡に同架したカメラで、鏡筒の先端部に近い右側のが 15 cm, F 1.7 のシュミットカメラ、後方右が 21 cm, F 3.8 の写真用反射鏡で、架台は近くの鉄工所で作り、運転時計は自作とのこと。

2, 3 は F 3.8 写真用反射鏡で撮影した NGC 3389 中の超新星で、2 は本年3月14日、露出35分、3 は5月7日露出30分で、2 の三つの星雲の中の右下のものの上に新星が見られる。





4, 5 は F1.7 シュミットカメラで撮影したもので、4 は昨年 12 月 14 日、5 分の露出によるルドニツキー彗星、中央の明るい星より 17mm 左下が彗星である、5 はベルセウス座二重星団